

症例報告

黄疸で受診し，肺，肝，胆管，縦隔リンパ節に病変を認めた外国出生
若年者結核

尾下 豪人¹，沼尾 規且²，松田 賢介²，吉岡 宏治¹，池上 靖彦¹，山岡 直樹¹

所属機関：国家公務員共済組合連合会吉島病院¹呼吸器内科，²
消化器内科

要旨

症例は 28 歳のフィリピン出身男性。黄疸にて消化器内科を受診した。腹部造影 CT で肝内低吸収域，肝内胆管の拡張を指摘された。胸部画像検査で両肺上葉の浸潤影を指摘され，喀痰で結核菌群 PCR 陽性が判明した。内視鏡的逆行性胆管造影を行い，胆管狭窄に対してステントを留置した。胆管狭窄部の内視鏡的生検では結核に矛盾しない病理像を認めた。嚥下された結核菌が胆管から侵入し，肝胆道系に病変を生じたと考えられる稀少な症例であった。

キーワード:

閉塞性黄疸 (obstructive jaundice)

肝胆道結核 (hepatobiliary tuberculosis)

内視鏡的逆行性胆管造影 (endoscopic retrograde
cholangiography : ERC)

外国出生者 (foreign-born)

短縮タイトル : 黄疸で受診した外国出生結核患者